

イトウも棲めるまちづくり推進協議会 設立趣旨

石狩川流域においては、平成 11 年より「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」を実施するなど、魚類の視点から河川の連続性の回復や河川環境の整備に先駆的に取り組んできた。近年、国際的に生物多様性の回復を目指す「ネイチャーポジティブ」が重視される中、これまでの取組を継承・発展させるとともに、生態系ネットワークの形成という観点から、流域に広がる多様な自然環境とのつながりを保全・再生し、地域社会や経済の活性化に資することが求められている。

石狩川に生息する魚類の一つに、日本最大の淡水魚であるイトウがいる。かつては北海道及び東北地方に広く分布していたが、河川環境の改変等により、東北地方ではすでに絶滅し、北海道においても生息河川が著しく減少している。そのような中であって、石狩川水系では、空知川及び雨竜川の上流域に個体群が確認されており、その他の地域では絶滅状態にある。イトウは広く水系全体を利用する回遊魚であり、水生昆虫や小型魚類を捕食して成長し、土砂供給のバランスが良好な上流の礫河床で産卵する。こうした生態的特性から、流域の環境の健全性を示す指標種としての役割を果たしている。

本協議会は、石狩川流域における生態系ネットワークの形成を推進するにあたり、イトウをシンボルとして位置づけ、現存する空知川及び雨竜川の上流域を中心とした石狩川流域において、地元自治体をはじめ、学識者や関係団体、河川管理者、行政機関が協働のうえ、河川及び流域の自然環境の保全・再生・創出を進めるとともに、イトウを活用した地域振興や経済の活性化、さらには持続可能な地域づくりと健全な生態系ネットワークの形成に資することを目的として、「イトウも棲めるまちづくり推進協議会」を設立するものである。